

## 埋蔵文化財センターの活動

## 発掘技術者研修の意義と展望

埋蔵文化財センターが設置されたのは1974年4月11日、日本が高度経済成長の道を歩んでいる時でもありました。当センターが奈良文化財研究所に設置された理由は、文化庁の付属機関のなかでは唯一埋蔵文化財の調査研究を担当している機関であるとともに、既に1966年度以降、埋蔵文化財発掘技術者研修を毎年実施していた実績があったからです。さらに飛鳥・藤原・平城地域等の発掘調査を継続実施しており、研修や技術開発のフィールドを確保しうる点、設置後当センター職員が発掘調査研究の現場に絶えず接触しうる点などが考慮されてのことでした。当センターの具体的な役割として、次の4点を挙げることができます。

- (1) 地方公共団体のおこなう埋蔵文化財調査に関する専門的な指導助言
- (2) 地方公共団体のおこなう埋蔵文化財調査の専門職員等に対する研修
- (3) 埋蔵文化財に関する情報資料の収集整理提供
- (4) 埋蔵文化財調査技術の開発

なかでも(2)の研修事業には、特に力を入れて実施しております。

発足当初、埋蔵文化財センターの主要な事業の一つであった発掘技術者研修は、一般研修2回にとどまっていましたが、1982年度には年間11課程、受講者数258人、延べ257日に、ピーク時の1992年度には発掘技術者研修の年間受講者数が473人に及ぶようになりました。その後、バブル経済が崩壊したことによって、全国的に開発行為そのものが減少の一途



保存科学課程の実習風景

をたどり、埋蔵文化財をとりまく環境が大きく様変わりしてきました。しかし、世間の埋蔵文化財行政に対する関心は依然として高いものがあり、当センターとしても埋蔵文化財の保護と調査技術の世界水準を目指していくための研修事業に益々力を入れているところであります。

2003年度の研修課程は、開講当初から実施してきた一般研修の他に、専門研修を8課程（写真基礎・保存科学・文化財写真・古代集落遺跡調査・遺跡環境調査・官衙遺跡調査・報告書作成・城郭遺跡調査）、特別研修を5課程（科学分析調査・遺跡地図情報・自然科学的年代決定法・陶磁器調査・動物考古学）、合計14課程を組んでいます。どの課程も第一線で活躍している講師陣をそろえ、研修内容の充実を図っています。カリキュラムも世の中の動向を敏感に反映する内容を取り入れ、研修生に質の高い研修を提供することにスタッフ一同腐心しています。また、参加される研修生の方々にとっては、全国各地の文化財行政の情報交換や人的ネットワークの構築には恰好の場といえるのではないのでしょうか。埋蔵文化財を視野に入れた地域活性の担い手として、是非、埋蔵文化財センター主催の発掘技術者研修の門をたたかれることを強く望みます。

(埋蔵文化財センター長 田辺征夫)